



韓国メディアと連携して自治体の魅力を発信!!

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 木下 祐也 (愛媛県派遣)

韓国メディアとのタイアップ事業

ソウル事務所は、2016年度から韓国メディアである「チャンネルJ」と連携して、日本の各地を訪問取材し番組を放送することで、日本の地域の魅力を韓国国内で発信する事業を実施しています。新型コロナウイルス感染症の影響により、2年間、訪日取材ができていませんでしたが、2022年8月に日韓の水際対策が緩和されたことを受け、3年ぶりに訪日取材を実施しました。2022年度においては、これまで日本韓国間に就航していた地方空港が依然として再開されていないこと、より効果的なPRのため単一自治体ではなく地域としてPRすること、訪日観光客の少ない地域を優先することを考慮し、四国（香川県、徳島県、愛媛県、高知県）と、北東北（青森県、秋田県、岩手県）を取材することとなりました。

四国編

1回目は、9月27日から30日にかけて、徳島県、高知県、愛媛県、香川県を訪れ、各県の観光地や食べ物を紹介しました。

徳島県では、「渦の道」で世界三大潮流の一つといわれている鳴門の渦潮、道の駅「くるくるなると」と「大渦食堂」の迫力のある三段重ねの「くるくる大渦 海鮮絶景丼」を撮影しました。続く高知県では、クロード・モネがこよなく愛したフランス・ジヴェルニーの庭をモデルに創られた「モネの庭 マルモッタン」のほか、「活魚 漁ま」でカツオのタタキや日本酒などを撮影しました。

愛媛県では、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている八日市護国地区の町並みや伝統工芸品である大洲和紙を手づくりしている「天神産紙工場」での紙漉

き体験、「大森和蝸燭屋」、「内子座」のほか、「かどや大街道店」では、愛媛県の郷土料理である鯛めしを取り上げました。四国編の最後となる香川県では、国の特別名勝に指定されている栗林（りつりん）公園をはじめ、四国村ミュージアムや「ざいごうどん本家 わら家」でのうどんを撮影し、旅を締めくくりました。



大渦食堂 くるくる大渦海鮮絶景丼を食べる出演者

10月29日、30日と2回に分けて放送した後、11月中にも複数回再放送し、多くの視聴者にご覧いただくことができました。

視聴者からは、「四国という地域は初めて聞きましたが自然と文化と歴史、食べ物などをたくさん知ることができて嬉しいです!!」「新鮮な鯛を美味しく料理した鯛め



栗林公園を紹介する出演者



もしもに思い出しますね。伝統と芸術が息づく多様な体験から家屋まで一つ一つ新しい場所を旅行する気分になって、コロナが終わったら私も行こうと思います」といったコメントが寄せられ、四国をPRすることができました。

北東北編

2回目は、1月30日から2月2日にかけて、青森県、岩手県、秋田県を取材しました。青森県では、「A-FACTORY」でリングを使ったジェラートやシールドといった各種特産品を取材したほか、「ウィーン菓子シュトラウス」でのデザート、ラーメン屋「かわら」を訪れ、青森県ならではの味噌カレー牛乳ラーメンを取り上げました。続く岩手県では、岩洞湖レストハウスでの氷上わかさぎ釣り体験のほか、ステーキ・鉄板料理の「和かな」で、国産和牛ステーキのほか、盛岡市民のソウルフードである「福田パン」でコッペパンも紹介しま

した。北東北編最後の秋田県では、乳頭温泉郷「妙乃湯温泉」での金の湯・銀の湯のほか、「秋田長屋酒場」で秋田県の郷土料理のきりたんぼ、地場産と無添加にこだわり、近隣の農家さんから仕入れた食材を自然由来の調味料で加工している「ひなたエキス」を取



岩洞湖レストハウスでのわかさぎ釣り(岩手県)

材しました。2月23日に第1編、第2編を続けて放送し、3月にも再放送しました。また、取材に同行したチャンネルJマーケターズによるブログ発信も実施しています。

北東北編について視聴者からは、「北東北編、興味深いですね。初回の連続放送の時、本番を死守したんですけどやっぱり良かったです。岩手県のわかさぎ釣り、青森県のリングで作ったデザートまでユニークでした。普段あまり見られない旅行先を臨場感たっぷりで見ること

ができて本当に良かったです」「味噌カレー牛乳ラーメンは初耳ですが、挑戦してみたい食べ物が出てきて、その味が気になりますね!もちろん、北東北の風景も楽しみです」など、各県の魅力が伝わったコメントが寄せられました。



乳頭温泉郷 妙乃湯を紹介する出演者

2023年度の地域魅力発信事業

韓国では、「孤独のグルメ」の人気があるように、日本の食について関心がとても高く、ソウル事務所があるソウル市内においても、とんかつ、ラーメン、寿司、もつ鍋、やきとり、お好み焼きなど日本料理店が数多く存在しています。2019年に起きた韓国における日本製品などに対する不買運動は、現在は表立っては見られません。新型コロナウイルス感染症による海外渡航の制限などが緩和され、日韓間の航空便が再開すると、海外渡航、とりわけ近い国でもある日本へは、最近の円安ウォン高もあって、多くの韓国人が訪れています。今後も韓国人の訪日数は増えると期待しています。

2023年度も引き続き当事業を実施予定ですが、地方空港の国際線が再開に向けて動き出したこともあり、単一自治体での取材を検討しています。取材に向けて協力いただける自治体を募集しますので、関心のある自治体の皆さまにおいては、ご検討のほどよろしくお願い致します。

また、2023年度は、韓国国内で行われる観光展や物産展などの各種イベントへのクレーブス出展について、より日本の地域の魅力を発信できるよう力を入れてまいりたいと考えております。各種イベントにおいては、自治体の皆様のPR資料などが不可欠ですので、現在募集中のPR資料などについても、ぜひ積極的に送付いただければと思います。